

## 職能委員会報告

### ■ 保健師職能委員会

中堅期保健師コンサルテーションプログラムは、3日間の短縮版で実施した。アンケート結果からも人材育成を図る上で必要な研修としての位置づけが期待され、自己評価、目標達成度は高かった。

産業保健師の人材育成を目的とした研修や勉強会は、コロナ禍でも一定数の参加があり、感染症対策やワクチン接種など、時宜になかったテーマで効果があった。特に、勉強会では、意見交換がタイムリーに行われたことで問題の共有が図れ、学び合える機会として大きな役割を成した。

三職能合同交流集会は、Web開催にすることで感染拡大する中でも目標以上の参加があり活発な意見交換が行われ、アンケートでの満足度も高かった。患者や住民に真摯に向き合う看護職の活動の実際を共有することができた。

すべての看護職を対象にした「看護職のためのセルフ・コンパッション」研修は看護職のメンタルヘルスに関するセルフケア能力の向上やラインケアとして引き続き重要なテーマであることから、令和4年度の三職能合同交流集会のテーマとしていきたい。

### ■ 助産師職能委員会

今年度、助産師職能委員会主催で開催した研修は「新生児のフィジカルアセスメント～正常からの逸脱がわかる～」のテーマで行い、参加者は10名であった。参加者は少なかったが、臨床経験3年以下の助産師・看護師に必要な知識に焦点を当てた内容と、新生児のフィジカルアセスメント力の向上をねらいとしたことで、参加者の満足度は高かった。

この研修の目標の一つに若手が抱える日々の業務での疑問や困難に対応することがある。具体的な場面を受講生同士が話し、共感し合い、解決策を時にファシリテーターが教授することで目標を達成することができたと考える。さらにグループワークを通して、新生児ケアだけでなく、臨床現場で抱えている疑問や悩み、困っていることを共有し、助産師活動を推進するためのネットワークづくりの場とすることができたと考える。

### ■ 看護師職能委員会領域Ⅰ

コロナ禍で在宅・施設や病院において不活動性によるフレイル状態（身体的、精神・心理的、社会的）に至るケースの増加に対して、看護的視点で予防につなげることを目的とした研修会を行った。フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドロームについて、栄養、運動、看護師の視点と多職種との連携などの内容でWeb開催した。

参加者からは、「多職種で関わっていくことの重要性を再認識した」「患者のそばにいる看護師だからできる気づきを共有し、自分からも積極的に発信していこうと思いました」「参考になるリーフレット、本や動画などを知ることができた。スタッフと共有し、日頃のケアに何か取り入れたい」「自身の生活にも取り入れて実施したい」などおおむね好評を得た。

### ■ 看護師職能委員会領域Ⅱ

10月25日の在宅・高齢者ケア施設の管理者交流会で、「科学的介護情報システムLIFE」について、2名の講師を招きご講義いただいた。「LIFE」のシステム等についての理解は不十分であったが、グループワークでは参加者27名がそれぞれの課題を共有し、しっかり話し合っていた。さらなる「LIFE」の理解を深めるために、令和4年2月12日ステップ2研修を企画した。参加者は71名で、講義内容のアンケート結果では、理解度、満足度、活用度、今後の実践につながる、すべての項目で高評価を得た。今後、本研修は、看護・介護連携として介護職にもアプローチしていく。

## 委員会報告

### ■ 教育委員会

令和3年度は97研修を計画。定員は研修室の収容人数の50%とし、新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑みながら感染対策を徹底し、Zoomによる遠隔講義体制も整えた。結果、計画した97研修すべてを実施することができた。参加実績は、定員数4,489名に対し、応募者数は3,380名、応募率75.3%であった。また、受講決定者数3,261名に対して出席者数は2,937名であった。

開催については、感染対策の徹底と開催方法の体制整備により中止することなく開催できる体制が整った。今後は受講者数の増加を図るための対策を考えていく。

### ■ 学術推進委員会

#### 看護研究学会開催実績

テーマ：危機的状況の経験から何を学び何を活かすか？～ COVID-19からの学びと人材育成～

開始期日：令和4年1月15日（土）9：00～16：00

参加人数：当日Web視聴150名 オンデマンド視聴参加：363名

研究発表：口演16題、示説発表39題

ビデオメッセージ：教育評論家 尾木 直樹（尾木ママ）「危機的状況の経験から未来志向の人材育成について」

シンポジウムは、「未来志向の人材育成」を柱に3名のシンポジストが登壇。視聴者アンケートから、「満足できた」「とても満足できた」の回答は96%と高く、コロナ禍で困難を抱えている中でタイムリーな内容と評価した。研究発表は、口演16題をテーマ別に4群に分け実施した。アンケートから、「Webやオンデマンド視聴は場所を問わず参加しやすい」「今後もこの方法で継続してほしい」など、Web開催を好意的に捉えたものが多かった。

学会全体の満足度は、「満足」「とても満足」は96.4%、「学会参加を同僚にすすめたい」は93.7%と好評であった。

### ■ 医療安全委員会

医療安全管理者養成研修 令和3年度は日本看護協会主催のインターネット配信研修

〔開催実績〕

第1回 9月18日 受講者：79名 ＊リモート開催

第2回 10月16日 受講者：78名

第3回 10月27日 受講者：79名

医療安全管理者養成研修終了後フォローアップ研修 令和4年3月5日 受講者：39名

オンデマンド受講から5時間の集合研修となった際、受講者の意識の切り替えが難しいと感じた。35時間の講義の中の「安全文化の醸成」についてディスカッションがなされないと、自分たちが何を求められよう実践すべきなのか気づくことが難しい。今回の開催形式は、小さい組織などから広く応募が可能となったがその反面、医療安全管理者となるべき認識が薄い受講者も見受けられ、受講意欲やモチベーションに差が生じていたことは否めず演習の参加態度や理解のスピードにも影響していた。

以上のことから、令和4年度の医療安全管理者養成研修の開催方法は、東京都看護協会にて企画・運営を行い、開催形式は集合研修を基本とすると決定した。

### ■ 社会経済福祉委員会

6月20日 卒煙サポーター研修 受講者数：50名

7月17日 看護補助者のための研修 第1回 受講者数：66名

7月31日 看護補助者のための研修 第2回 受講者数：39名

10月 2日 看護補助者の活用推進のための看護管理者研修 第1回 受講者数：75名

11月 6日 看護補助者の活用推進のための看護管理者研修 第2回 受講者数：83名

「卒煙サポーター研修」は看護職のタバコ対策としてサポーターの育成は必要であり、例年コンスタントに受講希望者がいることから継続実施する。

「看護補助者のための研修」は3年目となり、参加者の満足度も高く、看護職と東京都の協働推進研修のOff-the-Job Trainingとして有益であると考えられる。また、看護補助者の活用推進のための看護管理者研修の補助的役割としても重要である。

「看護補助者活用推進のための看護管理者研修」は補助体制加算に係る研修でありニーズが非常に高く、グループワークも含め好評を得ている。開催した事業はすべて受講者の評価も高評価であり、次年度も継続実施する。

## ■ 看護制度委員会

10月6日 感染症対策の基本 受講者：49名

令和4年2月2日 進学説明会 「看護師学校養成所2年課程進学に向けての説明会」 受講者：14名 相談者：8名

研修会及び情報交換会については、「感染症対策」のテーマで研修会を開催し、感染症専門看護師により、ゾーニングや標準予防策の実際の研修会の後、グループワークによる情報交換会を行った。研修会の理解度は97%、満足度については研修会、情報交換会とも90%以上であり、理解度、満足度ともに高いことから、開催の目的は達成できた。

進学説明会は、受講者14名、うち相談者は8名であった。終了後アンケートでは、受講後「進学を希望する」と回答したのは100%であり、満足度も100%であったことから、進学説明会開催の目的は達成できた。受講後の満足度や進学の希望が高いことから、受講者の進学やモチベーションアップの支援につながったと考える。

## ■ 感染対策委員会

感染対策指導者養成研修「感染対策マネージャー養成研修」実施

9月19日～11月23日 受講者：212名

定員100名のところ267名の応募があり212名を受講決定した。最終的に180名が修了した。单元ごとにテストを実施することで理解度を確認しながら視聴を進めてもらうことができた。200床以下で感染管理認定看護師等がいない施設を対象としており、院内で感染管理を担当している管理者が多く参加し、26時間をかけて系統的に学べたことで、感染管理に関して意欲や自信を持つことができたという受講生が多かった。

本研修は、寄附金を財源として2年間実施。研修の有用性を東京都に説明し、東京都における感染症対策として必要であると認められ、令和4年度は東京都の受託事業として実施することとなった。

都内の医療機関の半数以上が200床以下である。多くの施設で感染管理認定看護師等が配置されていないことが多い。感染管理認定看護師等がいなくても、正しい知識と判断力を身につけた看護職の育成を継続していくことが現在のコロナ禍においては重要なことである。

## ■ 災害対策委員会

【災害支援ナース養成・更新研修（Web/Live研修）】

災害支援ナース養成研修	7月 2日	新規登録者：62名	災害支援ナース更新研修Ⅱ	11月26日	更新者：21名
	11月27日	新規登録者：81名		12月18日	更新者：20名
災害支援ナース更新研修Ⅰ	7月 3日	更新者：48名	災害支援ナース更新研修Ⅲ	10月30日	更新者：36名
	10月29日	更新者：55名		12月17日	更新者：32名

【管理者向け災害研修】

9月25日 テーマ：東日本大震災から10年～今、看護管理者に伝えたいこと～

新型コロナウイルス感染症の影響で、集合研修が実施できていないが、Zoomのほうが参加しやすいという受講者も多かった。しかし、災害支援ナースは被災地で初めて会う人ともコミュニケーションを取りながら活動する必要があるため、今後はできるだけ集合研修を実施したい。

今年度は東日本大震災から10年の節目ということで、管理者向け災害研修に福島県の看護部長の講演を企画できたことは良かった。災害を風化させず、常に防災意識を持ち続けてもらうためにも、管理者向けの研修は引き続き開催していく必要がある。

## ■ 広報委員会

会報 看護とうきょう発行 133号 9月30日 46,376部 / 134号 令和4年3月16日 45,666部

132号から掲載を開始した地区支部活動は、133号からは各支部1ページに掲載スペースを増やし地域からの情報発信を強化することができた。Webサイトへも掲載することで地区支部活動情報発信の強化にもつながった。地区支部ページを設けたことで、他施設の活動や取り組みを知る機会となり、地区支部からも好評を得ることができた。コロナ禍で交流も難しいことや新型コロナウイルス感染拡大の中、実施した感染対策関連事業や臨床現場の現状等について、会員へ情報発信することができた。

## ■ 地域包括ケア委員会

新型コロナウイルス感染症拡大防止を含め、感染により顕在化したさまざまな課題から活動計画を立て実行した。

- ・ 中間活動報告会 10月31日
- ・ 活動報告会（年度）、講演会 令和4年2月25日（オンライン開催）  
講演会テーマ「看護の視点からの第8次医療計画、地域医療構想策定に向けて」  
講師 公益社団法人日本看護協会常任理事 吉川 久美子 氏

地域包括ケア委員会は、それぞれの地域で特性や課題を見出し活動している。その活動は看看連携、多職種連携などを通じて認知されつつあり、地域包括ケアの推進に寄与していると考えられる。看護協会地域包括ケア委員会がさらに地域で認知され、何ができる（してくれる）委員会なのかを明確にして活動することが課題である。

## ■ 子育て支援委員会

- ・ プレファミリー講座 開催12回 参加者：552組

Web/Liveによる双方向性の講座を目指した。受講者の満足度は「大変満足」「まあまあ満足」が大半を占めた。会場への移動がなく、パートナーと時間をともにして受講できることへの評価が高かった。申込定員を11月以降70組に増やした。定員を増やしても欠席率が増加することはなかった。Web/Liveによる開催であったため、より参加しやすい状況であったことが推察される。

- ・ すくすく広場 開催4回 参加者：51組

新型コロナウイルス感染拡大状況にあって外出する機会が減り、親同士の交流機会も少なくなっている中、Webでの開催であっても参加できることはうれしいとの高い評価を得られた。

- ・ 学習会 参加者：25名

子育てに関連した看護職者を対象とした学習会として企画した。講演では新たな知見が得られ、実践に活かせる内容であったことから受講者の満足度も高かった。参加率も96.2%となった。

- ・ 出前授業 開催5回 参加者総数：608名
- ・ メール相談 2か月間で3件

## ■ 看護学生学会ワーキンググループ

本年度も新型コロナウイルス感染症の蔓延及び会場の改修工事のためオンデマンド開催となった。参加募集は看護専門学校に加え看護系大学にも実施要項を配布、参加校の増加を図った。演題募集については、看護系学校の実習状況により応募数の減少が懸念されたため、応募期間の延長、各学校への直接応募依頼を実施した。また、学生の学会参加への動機づけとして、学校紹介のコーナーを新設した。学生はコロナ禍において大変困難な学習環境に置かれている。このような中で、看護に関する情報の取り扱い方や活用について知識を得ることができる本学会開催は大変有意義な機会となった。

## ■ 認定看護管理者教育課程・教育運営委員会

ファーストレベル第1回	5月17日～ 6月18日	受講者 61名	修了者61名
ファーストレベル第2回	11月 4日～ 12月10日	応募者169名	受講者72名 修了者71名
ファーストレベル第3回	12月15日～ 2月 3日	応募者 92名	受講者74名 修了者73名
セカンドレベル第1回	8月17日～ 10月29日	応募者 48名	受講者45名 修了者45名
サードレベル	6月21日～ 10月15日	応募者 25名	受講者25名 修了者25名

各施設における看護管理者育成に向けた教育への期待が高いことが、応募者数の増加につながっている。研修開催方法としてハイブリッドを活用することにより新型コロナウイルス感染症の感染状況においても、応募者数の減少はない。全課程を計画通り実施できたことは、会員サービスの上でも重要である。